

学校だより 9月号



ふたみにし



2018年（平成30年）9月3日

感謝の気持ちを日頃から

校長 長井 佐智夫



記録的な猛暑と早くも2つの台風の襲来など、天気が大きく左右された夏休みとなりました。子どもたちも、思いっきり外で遊ぶといったことが十分にできにくかったのではないかと思います。まだまだ日中は厳しい暑さが残りますが、朝夕はさすがに秋の気配も感じられます。ただ、台風21号の動きが大変心配されます…。

さて、9月17日は「敬老の日」。ご存知の方もおられると思いますが、「敬老の日」は、兵庫県多可町（旧八千代町）が発祥の地です。今から71年前に当地で敬老会が開催され、9月15日を「としよりの日」と定められました。それが、兵庫県内、全国に広がり、52年前に9月15日を「敬老の日」として国民の祝日に加えられました。その後、9月15日から9月第3月曜に移行されています。

今、「敬老の日」をワード検索すると、「プレゼント・ギフト」のサイトがズラ〜っと並んでいます。確かに、プレゼント等を渡すことも感謝の気持ちを表す一つの方法ですが、旧八千代町での敬老会創設時の本来の趣旨である「長い間社会に貢献されてきたお年寄りに敬意を表す」「知識や人生経験を伝授してもらおう」という気持ちを子どもたちにも日頃からもってほしいと思います。



## 通学路点検実施

この度、明石市、兵庫県、市教委、明石警察、学校、PTA、校区自治会、スクールガードのみなさんによる校区内通学路合同点検を行いました。

その結果、以下の特に危険な3カ所について安全対策を立てていただきました。

○今池交差点歩道橋（老朽化が進み階段部分の床面のはがれがある）

前もって行われた専門的な点検の結果、5年以内に補修工事の必要があるレベルにあるとのことで、他の歩道橋との調整により工事時期が決定します。

○イトーヨーカドー横踏切北側横断歩道付近（歩道の幅が狭く、通行量が多い）

横断歩道付近に、子どもたちの安全な歩行のための防護柵と、車道と歩道を区切るためのガイドポストを設置します。

○明姫幹線明姫東二見交差点東行き

（歩道橋が死角となり、左折自動車による巻き込みの危険性がある）

歩道橋下に自動車へ注意喚起をする看板と、横断歩道付近に歩行者のための路面標示を設置します。

# 平成 30 年度 第 21 回運動会に向けて

体育担当 八木 智也

運動会は、非日常的なパワーであふれかえります。おうちの方や地域の方々、友だちの応援を背に受けることで、子どもたちはやる気を倍増させ、演技に挑みます。そのときに見せる、必死に演技する眼差し、成し遂げた笑顔、一生懸命やったからこそ流す悔し涙、自分の組の勝利に向けて応援する姿など、それぞれにドラマが生まれます。だから、運動会は子どもたちにとって面白くて、楽しくて、忘れられない活動となってきたのです。

華やかさ・驚き・スリル・興奮……。

笑顔・涙・歓声……。

様々な要素が一つになって『運動会』という独特の世界を作り出します。子どもたちは夏休みが明けて間もなく、暑い中での練習に取り組むこととなります。たくさん練習を通して、子どもたちは成長し、学級・学年の団結力も高まっていきます。1年生にとっては初めての運動会。6年生にとっては小学校生活最後の運動会。子どもたち一人一人にいろいろな思いがあるはずです。いろいろな思いをもった子どもたちは、最高の演技をするために、毎日の練習に全力で取り組んでくれるものと期待しています。

おうちの方の目の前で、誰もが主人公、だれもがみんな大活躍です！

「フレ～、フレ～、赤組」「フレッ、フレッ、白組」「ガンバレ、ガンバレ、青組」

全員が盛り上がる運動会になりますよう、各ご家庭でも練習の様子を聞いていただいて、励ましてあげてください。その度に子どもたちは勇気づけられ、素晴らしい演技に結びつくと思います。どうぞよろしくお願いします。

## 予定種目（詳しいプログラムは後日お配りします）

1年	→	折り返しリレー	競争演技	}	玉入れ
2年	→	折り返しリレー	表現演技		
3年	→	リレー	競争演技	}	綱引き
4年	→	リレー	表現演技		
5年	→	リレー	競争演技	}	騎馬戦
6年	→	リレー	組体操		
全校	→	ラジオ体操	大玉送り		応援合戦

## 組

1組 → 赤組      2組 → 白組      3組 → 青組  
(1年生は4クラスなので、各クラスを3つの組に分けています)

# こころ豊かに たくましく 生きる

栄養教諭 信近 安希子

「こころ豊かに たくましく 生きる子の育成」

二見西小学校の学校教育目標です。これを食育の視点で考えてみました。

食育は、食べるだけでなく、食べる前後のこと、例えば自然環境や産業、流通、廃棄などに至るまで多岐にわたりますが、すべて「くらし」に直結しています。学校の食育では、子どもたちが家庭に帰って「こんな勉強をしてきたよ！」と保護者の方とお話をし、実際のくらしにつなげられるようになることを目指しています。

学校で子どもたちは毎日給食を食べています。給食を通して、どのような食品をどれくらい食べればよいのか、食品の組み合わせ、料理の方法などを知り、味わいます。また、旬の食材を使った食事や古くから伝わる行事の食事で季節を感じ、日本各地に伝わる郷土料理や世界の料理も体験しています。給食当番では衛生的な態度を身につけ、1年生の時には教師がつきっきりだったものが、子どもたちだけで協力して配膳ができ、給食が始められるようになります。会食時には、一人一人が残さずに食べて残食<sup>ゼロ</sup>を達成したり、大好きなおかずのおかわりも仲良くみんなで分け合ったり、時に「おかわりジャンケン」で負けてしまうことがあっても潔く諦めたりと、みんなが楽しく気持ちよく給食時間を過ごすためにどうすればよいかを考えられるようになります。6年間で子どもたちは「こころ豊かに」「たくましく」成長していると感じられませんか？

「給食時間でできるようになったこと、家でも実践しているかな？」

改めて食育というと、保護者の方々は一緒に料理をしたり、家庭菜園をしたり何か特別なことイメージされるかもしれませんが、確かにそれらも子どもたちにとって楽しくてよい経験になりますが、ちょっと大変です。そこで、簡単なお手伝いから始めてはいかががでしょうか。例えば、食卓の準備や配膳、後片づけなどです。保護者の方がされるより時間はかかるかもしれませんが、きっと上手にできると思います。その他にも、家族で外食されるときには一緒に栄養バランスを考えてメニューを選んだり、マナーを守って食べたりすることも家庭でしていただける「食育」の一つではないでしょうか。

食べることは一生のことです。本校では子どもたちが「こころ豊かに たくましく 生きる」ことができるよう、今後も食育に取り組みます。保護者の方々にもご協力いただくことがあるかと思いますが、どうぞよろしく願いいたします。